

定着しつつある外国船による日本発着クルーズ 今年は 143 本が既に予定!!

2025.1.12 池田良穂

コロナ禍以降、日本発着クルーズを行う外国籍クルーズ客船の数が増加傾向にあることは周知の通りだが、今年も、その数は16隻にのぼり、クルーズ本数では150本に迫る勢いになっている。

外国船による本格的な日本発着クルーズは、1971年に「コーラル・プリンセス」によって始められたが、1989年に同船が撤退してからは、カボタージュ規制に守られて日本籍クルーズ客船の独壇場という時代が長く続いた。

2013年に、米プリンセスクルーズが「サン・プリンセス」を日本発着クルーズに投入して、その後、より大型の「ダイヤモンド・プリンセス」をほぼ年間にわたる日本発着クルーズに投入し、さらに、コスタクルーズ、MSCクルーズが進出した。

そしてコロナ禍を経て、昨年(2025年)には外国クルーズ客船による日本発着クルーズは137本に達し、今年(2026年)も、現時点で143本のクルーズが既に発表されている。就航するクルーズ客船は16隻にのぼり、最も多い本数を行うのが「ダイヤモンド・プリンセス」とMSCクルーズの「MSCベリッシマ」で、それぞれ28本の日本発着クルーズを実施する。両船に次ぐのが、「セレブリティ・ミレニアム」の15本、「バイキング・エデン」の13本、「コスタ・セレーナ」の10本となる。

発着港は、東京港と横浜港の2大港を有する関東が最も多く、総計102本と70%強を占める。中には東京発・横浜着というように、発と着の港を変えているクルーズもある。続くのは那覇港の15本。フライ&クルーズで乗客を集めて、台湾ワンタッチにすることでクルーズ期間を短くしたクルーズが冬季に増加傾向にある。

関西では、神戸港の発着クルーズが7本あるが、神戸発・東京または横浜着のクルーズが11本ある。

一方、那覇以外で、地方港を発着するクルーズがあるのは金沢港だけで2本のみである。地方の旅行社のチャータークルーズが他にもあるかもしれない。

この他、那覇発・東京着、那覇発・佐世保着といった国内におけるポジショニングのためのクルーズも6本ほどあるようだ。

以下の写真は、今年の日本発着クルーズの多いクルーズ客船の姿である。



ダイヤモンド・プリンセス



MSC ベリッシマ



バイキング・エデン (撮影: 西口正人)



コスタ・セレーナ